



専用の機械を使い、傾斜地の竹林から竹を運び出す実証実験  
=28日、薩摩川内市入来

## 専用機械で伐採竹搬出

人力と効率比較  
入来で実証実験  
薩摩川内市入来の竹

林で28日、専用機械を使い、伐採した竹を運び出す実証実験があった。省エネ対策の提案

なごを手掛けるテス・エンジンアリング（大阪）が鹿児島大学などと連携して実施した。今後、人力で集めた場合との効率を比較・検証していく。  
機械は、大阪市の機械メーカーが放置竹林

これまで京都や北九州で実験しており、薩摩川内が6カ所目。この日は計4時間ほどの作業で、約2・5トンの

竹を運び出した。検証を担当する鹿児島農学部寺岡行雄教授（森林計画学）は「少ない人数で効率よく収集できれば、人手不足による放置竹林化の防止につながる可能性がある」と話す。テス社は竹を用いたボイラーの開発を検討している。竹の搬出が効率化できれば、燃料としての竹の安定供給も期待されるという。

検証結果は来年1月末に薩摩川内市で開くセミナーで発表される。（常深さゆり）

に悩む関係者の声を受けて開発した。全長2・5メートル、幅1・4メートル、高さ1・5メートル、重さ1・2トン。竹林を囲むように張ったロープに伐採竹を取り付け、モーターで巻き取ることによって運び出す仕組み。事前準備が必要だが、車が入れない傾斜地でも重さ30〜40キロの竹を連続して搬出できる。

竹を運び出した。